錦城高校新聞

題字 井口 文章

再刊 第２９６号

印刷・発行

錦城高等学校新聞委員会
編集室 2019

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：白熱した決勝戦をプレイバック
実行委員長目線の春球大
二面：大活躍のＭＶＰ６人
＋優勝への道のりを語る

激闘の先の勝利を目指して

２０１９春球大幕を閉じる

５月28日(火)から30日(木)まで春季球技大会が開催された。一時は天候が危ぶまれたものの、中止になることなく終了した。１年生にとっては初めての球技大会。どのクラスも一致団結して優勝を目指した。（編集部共同取材）

得点が入り、輪になって喜ぶ２Ｃの女子バレーチーム

女バレ決勝２Ｃ対２Ｆ

女子バレーボールの決勝戦は２Ｃ対２Ｆの２年生同士の対決となった。第１セットは２Ｃのサーブから始まり、先制点へつながる。そのまま３点を連取するが、２Ｆも負けじと１点を取り返した。互いに拮抗し10対10となるも、２Ｃが強烈なサーブやスパイクを連続して決め、15対11で第１セットは２Ｃが取った。両クラス全員で円陣を組み、気合を入れ直した後始まった第２セット。ライン上に落ちるサーブやコート外に飛んでしまったボールを選手が転びながらも取る場面も見られた。

第２セットは序盤から６対１と２Ｃが点差を広げる。その勢いを弱めることなく、15対７で第２セットも２Ｃが手にし、優勝に輝いた。

男バレ決勝３Ｋ対３Ｃ

３Ｋと３Ｃの試合は決勝ゆえに高い技術の見られる試合だった。第１セットの最初のサーブは３Ｋ。しかしアウトとなってしまい先制点は３Ｃが奪った。その後３Ｋは鋭いサーブで８対１まで３Ｃを追い詰める。盛大な応援で試合の流れをつかんだ３Ｋは15対８とストレートで第１セットを制した。

第２セットもその流れは変わらない。序盤から徐々に点差が開き、後半には12対５と３Ｋが大幅にリードした。そして迎えた３Ｋのマッチポイント。３Ｃはチーム内でパスをつなげることが出来ず15対10で３Ｋが勝利。優勝の座は３Ｋが手にした。

３Ｋと３Ｃの白熱したラリー対決

女バス決勝１Ｊ対３Ｊ

多くの生徒が会場に押し寄せた１Ｊ対３Ｊの一戦は、１Ｊの先制攻撃で幕を開けた。開始早々、１Ｊが相手のファウルからフリースローを得る。この機会を活かし先制点をあげ、その後も得点を積み重ねた１Ｊが10対３で第１ピリオドを終えた。

第２ピリオドでも１Ｊの勢いは止まらず、計８本のシュートを決めて得点差をさらに広げる。３Ｊも果敢に攻め込むが、27対６と１Ｊが大幅にリードした状態で第３ピリオドを迎えた。

その第３ピリオドでは途中３Ｊがスリーポイントシュートを決めるが、後半に９連続で得点を重ねた１Ｊが52対12の大差で勝利を収めた。

敵をかわして果敢に攻める１Ｊ

男バス決勝３Ｇ対３Ｃ

３Ｇ対３Ｃの試合は、終始歓声がやまない白熱した試合だった。開始直後は、どちらもなかなか点が入らない。その中で、先制点を取ったのは３Ｃ。その後も得点を取ったのは３Ｃ。その後も得点を稼ぎ６対０とリードする。しかし３Ｇが粘りのシュートを入れ、第１ピリオドが終了。

続く第２ピリオドでは３Ｇが反撃の狼煙を上げ、同点まで追いつき10対10に。

運命の最終ピリオドでは序盤、３Ｇがフリースローで点を取ってから流れに乗り、華麗なパス回しで５点をリードする。３Ｃも抜群のチームワークで１点差まで迫るが、点差を守り抜いた３Ｇが15対14で白星をあげた。

３Ｇ対３Ｃ ゴール下での駆け引き

ドッジ決勝３Ｆ対２Ｉ

３Ｆと２Ｉの決勝戦は、両チームとも円陣を組んでから始まった。開始直後から２Ｉが３Ｆの選手を２人当て、勢いに乗り、３Ｆを残り１人にまで追い詰める。しかしこの後３Ｆが怒濤の反撃を見せつけ、前半は３Ｆの逆転勝利となった。

続く後半は３Ｆが開始直後から次々と２Ｉの選手を当てていく。３Ｆは攻撃を避け続け９人対５人とリードする。２Ｉは１人を集中攻撃する作戦で抵抗するが、３Ｆの外野と内野間の見事なパス回しで、２Ｉは攻撃のチャンスをつかめないまま最後の１人が当てられ、後半が終了。粘り強い戦いを見せた３Ｆが見事優勝を手にした。

鋭いボールで２Ｉを狙う３Ｆの内野

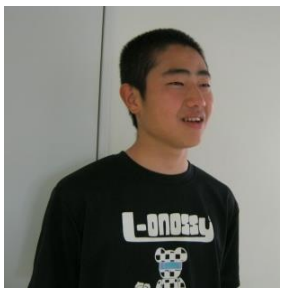
サッカー決勝３Ｌ対１Ｆ

決勝戦の３Ｌ対１Ｆの試合は両者が拮抗し白熱した戦いとなった。前半は互いに何度もシュートを打つが０対０で終了。続く後半戦は１Ｆのシュートがゴールに入るがオフサイドでノーゴールになり、勝負は延長戦へと突入した。

両チーム円陣を組んで始まった延長戦。ロングパスやヘディングで何度もゴールに攻め込むが、前半では決着がつかず後半へ。後半戦も終盤となり焦りが出始めてきたころ、勝敗を分けたのは１Ｆのスローインだった。ボールを奪った３Ｌが一気に攻め込みシュートを決め、優勝は３Ｌが手にした。

力強いロングパスを放つ３Ｌ

実行委員長はどう評価？



「秋球大では問題点の改善に努めます」

実行委員長の矢崎英慈くん（３Ｌ）に話を聞いた。昨年の反省を踏まえ、今年の春球大では本部に協力してくれる部活の部長との関係を深めることを意識したという。注意事項を部長に伝達し、部活内で共有してもらうようにしたが、あまり上手くいかなかったと振り返る。「今は３年生から２年生に代替わりする時期。そのため部活内の伝達が上手くいかなかったのかもしれません」と話す。秋球大では本部と部活の連携をさらに強化したいそうだ。

一方で良かった点も。今年は自分のクラスが出場する試合以外でも、応援をしている生徒が多かったと感じたそう。「みんなが参加している姿勢が見えて良かったです」と矢崎くん。またテスト前にも関わらず、休み時間や放課後に練習している生徒が多くいた点も良かったと評価した。

毎年反省点に挙がるという野次や上履きのまま外に出るなどの行為の他、今年はメンバー表の記入ミスなどが起こった。矢崎くんは「これらを秋球大では改善したいと思います」と意気込んだ。（柊）

「はじめて」の球技大会を終えて

初めて錦城の球技大会に参加した１年生や、教育実習中の先生に３日間を終えた感想を聞いた。

放課後吹奏楽部として練習をしていた堀内優香さん（１Ｉ）、松下由依さん（１Ｊ）。堀内さんは上級生の競技への本気度にびっくりしたという。「どの競技もみんなガチで、レベルが高かったです」と振り返った。また松下さんは「歓声が教室の中まで聞こえてくるほど盛り上がっていました」と話し、競技の応援もすごかったと２人は口を揃えた。

「上級生のバレーが印象的でした」

フットサル部で練習をしていた石野貴一くん（１Ｈ）は競技種目がたくさんあることに驚いたそう。想像以上に盛り上がれたという石野くんは「ミスさえも親睦を深める機会にすることができました」と笑顔を見せた。

「秋はもっと応援を頑張りたいです」

教育実習中の辻久也先生（51回生）は、生徒として参加するのと先生として参加するのとでは違うと断言。「生徒のころは主観的だったのが『あの子頑張ってるな』と客観的に見ることができたのかもしれません」と当時との違いを話してくれた。（槿）

むらさき草

自分のことを自分で決めることが苦手だ▼球技大会の開会式で校長先生は「人は上手く結果が出ないとき、他人のせいにしがち。自分のことは自分で管理しよう」と話していた。この言葉を聞いて、自分も同じだと思った▼中３の冬、進学先を決めるために色々なことを調べ、進路について真剣に考えた。しかし結局どこの高校に行けば良いか分からなくなってしまい、親に勧められた錦城高校を選択した▼そして入学した自分を待っていたのは慣れない高校生活に小テスト地獄の日々。自分で決めなかったために不満の矛先は親へ向いた▼学校側は「主体的に行動しなさい」というが、もちろん自分たちで全てを「主体的」に決めているとは言い切れない。校則や制服の着用など学校には守るべきルールが数多くある▼とはいえ、限られた選択肢の中から自分で考え、選択しなければならないことは身の周りにたくさん転がっている。しかし失敗を恐れて一歩踏み出せないときもある▼吉野源三郎作『君たちはどう生きるか』を読んだ。特に印象に残っているところは、勇気の無さから友達を裏切り、落ち込んでしまった主人公コペルくんに、おじさんがノートを通して伝えたこの言葉。「僕たちは、自分で自分を決定する力を持っている。だから誤りを犯すこともある。しかし― 僕たちは、自分で自分を決定する力をもっている。だから、誤りから立ち直ることもできるのだ」▼大事なのは選択の結果ではなくて、選択までの過程とその後の行動だと言われているような気がした。新聞委員の仕事においても３年生が引退した今、いつまでも他人任せで甘えていられないと自覚した▼主体性を身に付けるために、何をしたら良いだろうか。答えは、これからの高校生活の中で見つけていきたい。（菘）

男バス １Ａvs３Ｉ

男バレ ２Ｋvs３Ａ

ドッジ ２Ｋvs１Ｇ

３位決定戦 グラフティー

女バス ３Ｄvs２Ｍ

女バレ ２Ａvs３Ｇ

サッカー １Ｋvs３Ｂ

「勝利の秘訣はチームワーク」
春球大MVP特集

春季球技大会を盛り上げ、白熱した戦いを繰り広げた選手たちも各種目で一際活躍し、MVPに選ばれた生徒たちに取材した。6人のMVPは試合や練習を振り返って、感想や勝利の秘訣、秋季球技大会への意気込みを語った。

男バレ　佐野航介くん（３Ｋ）

「早くから練習してきた甲斐がありました」

男子バレーボールのＭＶＰに選ばれたのは佐野航介くん（３Ｋ）。「未経験とは思えないほど、みんな活躍していました。ＭＶＰを決められないぐらいみんな本当に素晴らしかったです。だからＭＶＰは６人全員です」と笑顔。

佐野くんたちは今年の４月から昼休みにコツコツと練習を積んできたそう。「日々の練習の成果を出すことができました。理系クラスには勝てないと言われていたので勝つことができて嬉しいです」と球技大会全体を振り返る。

今回の反省点は、タッチネットやラインを越えるなどのミスが最後まであったこと。秋季球技大会ではミスなく勝利することを目標に掲げ「受験もあって大変だと思うけど、２連覇を目指して頑張りたいです」と意気込んだ。最後に「応援してくれてありがとう」とクラスのみんなへメッセージを送った。（薊）

女バス　西川真由さん（１Ｊ）

「クラＴに合わせて侍を意識した髪型にしています」

女子バスケットボールのＭＶＰに輝いたのは西川真由さん（１Ｊ）。「スポーツは声出しをすることでチームの雰囲気が良くなります」と話し、キャプテンとして仲間への声掛けを行ったという。

試合中のモットーは全員でプレーを楽しむこと。全員が活躍できるように選手交代を何度か行い、経験者、初心者関係なくチームとして団結。球技大会中は次の相手の試合を見学し、プレーや体格のミスマッチを探して戦略を考えたと語る。西川さんの１番印象に残っている試合は５２対１２で圧勝した決勝戦。チーム全員で思いきり楽しめて良かったと振り返る。

ＭＶＰを取ることができたのは応援してくれた仲間のおかげだと言う西川さん。チームメイトに「勝利の秘訣は個々の強さとやる気のあるメンバー。一緒に頑張ってくれてありがとうと伝えたいです」と語った。（鷽）

ドッジ　前河原百葉さん（３Ｆ）

「『ファイト』『一発』の円陣で気合を入れました」

ドッジボールのＭＶＰに輝いた前河原百葉さん（３Ｆ）は３年連続でドッジボールに出場。今まではいつも上級生に負けていたため、今年は優勝できて嬉しいと喜びを語る。

試合は接戦が多かったそう。その中でも特に印象に残ったのは３Ｌとの２回戦。「昨年の球大で３Ｌ（当時２Ｄ）はとても強く、今年勝利できたときは安心しました」と笑う。

３Ｆは狙われている人の前に立ち、こぼれ球を拾う作戦。さらに時間も意識し、相手チームに勝っている場合はボールを回して時間を稼ぐようにしたという。前河原さんは「頭を使い、状況によってプレーを変えました」と話す。

３Ｆは男女で円陣を組むほどクラス全員で仲が良いのが強みだと前河原さん。チームメイトへ「私１人の力ではなく、みんなでとった優勝。チームに感謝しています」と述べる。「秋球大はどのクラスも強くなってきていると思うので、その中で２冠できるようにしたいです」と意気込みを語った。（柊）

男バス　遠藤憲哉くん（３Ｇ）

「仲間からの応援が力になりました」

男子バスケットボールＭＶＰに選ばれたのは、遠藤憲哉くん（３Ｇ）。遠藤くんは「優勝できると思っていなかったので、実感がないです」と話す。予選、決勝ともにたくさんのシュートを入れたことがＭＶＰに選ばれた理由ではないかと遠藤くん。

３Ｇはバスケ経験者が１人だけだったそう。しかし、担任の上原啓先生がバスケ部の顧問ということもあり、たくさんの話し合いや練習を通じてよい試合運びができたという。

決勝の第１ピリオドでは相手チームに得点を取られる場面が多々見られた。遠藤くんはこの時を振り返り、プレッシャーで押しつぶれそうだったと苦笑い。それでも休憩時にメンバーと声掛けをし、試合の流れを掴むことが出来たという。また、クラスメイトからの応援も励みになったと話す。秋の球技大会に向けて「もう１度優勝したい。頑張ります」と意欲的に語った。（卵）

サッカー　大島諒英くん（３Ｌ）

「２連覇を達成することができて嬉しかったです」

サッカーのＭＶＰを獲得したのは大島諒英くん（３Ｌ）。「ＭＶＰは決勝で点を入れたから獲得したもので、もっと活躍した人もいます」と謙虚な姿勢を見せた。

昨年からほとんどクラス替えがなかった３Ｌ。前回の秋球大でも優勝しており、ほぼ同じメンバーで戦った。そのためコミュニケーションもとりやすく、連携したプレーができたと話す。

３Ｌは準決勝でＰＫ戦にもつれ込む厳しい戦いを制して勝ち上がってきた。そのため決勝前にはチームで絶対に優勝しようと士気を高めていたと言う。決勝戦では０対０で延長戦に。迎えた後半、大島くんは決勝打となるシュートを放った。「味方からの良いパスがきて、しっかりゴールを決めることができて嬉しかったです」と笑顔で話した。

２年間ともに戦った仲間に「一人ひとりが頑張って良いプレーをしたから優勝できました。ありがとうございました」と感謝の言葉を口にした。（蓮）

女バレ　下川桃海さん（２Ｃ）

「チーム力と練習量はどこにも負けません」

女子バレーボールのＭＶＰに選ばれたのは下川桃海さん（２Ｃ）。ＭＶＰに選ばれた感想を聞くと「私だけの力ではありません。チームみんながＭＶＰです」と笑顔で語った。

下川さんたちは練習量も１番だったと自負し、そこで築いたチームの安定力が勝利につながった。「個々がすごく上手いわけではありませんが、チーム力でいえば最強です。どこにも負けません」とチームの強みを述べた。

大会中１セットも落とさない安定の強さを持っていた下川さんのチーム。「『負けちゃうかも』と思っていたら本当に負けてしまう。だからチームでラリーをつなぐことだけを強く意識して戦いました」と話す。

試合中の応援や、練習でのクラスメイトの協力が大きな活力になったと下川さん。「クラスメイト、特に最後まで欠けることなく戦い抜いてくれたチームのみんなに感謝したいです」と締めくくった。（槿）

球技大会３日間お疲れ様でした！

2019年　春季大会 3日目

	男子			女子			得点
	サッカー	バレー	バスケ	ドッジ	バレー	バスケ	
1A	0x−		000x□▲	0x−	x△x−		21
1B	x△△x−		x△x−		xx−	x△x−	8
1C	0x−		xx−		x△△△x−	xx−	9
1D	xx−	x△△△x−		x△△x−		x△△△x−	16
1E	x△△x−		xx−		x△x−	0x−	9
1F	00◎x−	xx−			xx−	xx−	10
1G	0x−		00x−	x△△△△x−	xx−		17
1H	0x−		xx−	x△x−	0x−		8
1I	xx−		xx−	xx−	xx−		0
1J	00x−	xx−			xx−	000◎☆	24
1K	00x□▲		x△△△x−	0x−	0x−		22
1L		xx−	x△x−	xx−	xx−		2

	男子			女子			得点
	サッカー	バレー	バスケ	ドッジ	バレー	バスケ	
2A		000xx−	xx−	0x−	x△△△△▲		22
2B		0x−	00x−	000xx−	xx−		18
2C	xx−		0x−	00x−	000◎☆		27
2D		00x−	00x−		x△x−	0x−	17
2E			0x−	xx−	x△x−	xx−	5
2F	0xx−			xx−	000◎x−	0x−	19
2G		xx−		xx−	00x−	0x−	9
2H			x△x−	0x−	x△x−	0x−	10
2I	x△△x−	0x−		00◎x−	x△△x−		21
2J	xx−	x△x−		0x−	xx−		5
2K		x△△△△▲	x△△x−	00x□▲	00x−		30
2L	00xx−	xx−			0x−	xx−	9
2M	0x−	xx−			x△△x−	x△△△△x−	15

	男子			女子			得点
	サッカー	バレー	バスケ	ドッジ	バレー	バスケ	
3A 男子のみ	xx−	000x□x−	00x−				17
3B	x△△△△x−		00x−		000xx−	xx−	23
3C		00◎x−	000◎x−		00x−	x△x−	31
3D 女子のみ				x△△△x−	0x−	00x□▲	25
3E		0x−	0x−	xx−	00x−		12
3F		0x−	x△x−	000◎☆		00xx−	29
3G		x△x−	00◎☆	xx−	000x□x−		28
3H	xx−			00x−	0x−	0x−	12
3I		0x−	x△△△△x−		0x−	xx−	14
3J		x△x−	xx−		x△x−	000◎x−	17
3K		00◎☆	0x−	x△x−	00x−		26
3L	000◎☆		0x−	0x−	0x−		27

☆=5点 ◎=4点 ○=3点 △=2点 ▲=2点 □=2点 ×=0点